



—東北生産性本部—

平成28年度労使定例政策研究会 第2回例会開催

テーマ

～伝統は改革の連続! 世界へ羽ばたく酒造り～

「既存のパラダイムに挑み続ける伝統産業のイノベーション」



■平成28年10月18日(火)開催

★講師 株式会社南部美人 代表取締役社長 久慈浩介氏

- ・岩手県二戸市生まれ
- ・東京農業大学醸造学科卒
- ・冬は酒造り、春夏は全国各地で「南部美人ライブツアー」を開催
- ・28か国に輸出し、年に数回、各国にて「酒の会・セミナー」を開催
- ・モンドセレクション、米国日本酒鑑評会等で金賞を多数受賞
- ・2008年 東京農大経営者大賞を受賞、最年少で同大学の客員教授に就任
- ・2009年「糖類無添加リキュールの製造法」で特許取得

『平成28年度労使定例政策研究会 第2回例会』は、東北岩手の地において、日本酒で世界に挑戦し続けている株式会社南部美人 五代目蔵元 代表取締役社長 久慈浩介様をお招きしてご講演をいただきました。

講演では、

・酒造りへのこだわり

「伝統は継承し、守りながら、新しい革新の技を加えることによって、進化させる。」製法は守りつつ、道具を工夫、替えることにより進化させている。

「酒造りの技術を日本酒だけに使うのはもったいない。」2009年に「糖類無添加リキュール製造法」を開発し特許取得した。砂糖・甘味料を一切使わず、純米酒と梅だけで製造している。

・海外への挑戦

なぜ海外進出したか。今、人口減少社会に突入したが、20年前には予想はされていた。国内だけでは勝負できないのであれば、世界に向けて勝負できないか模索していた。

祖父が60年前「二戸の南部美人」を盛岡の川徳デパートに卸すことができ、「二戸の南部美人」が「岩手の南部美人」になった。さらに父が30年前に東京に卸すことができ、全国に広まり「日本の南部美人」にした。自分がやるのは「世界の南部美人」にすることだと思った。しかし、折しも90年代の国内は空前の日本酒ブームであり、「国内で売れているのに、わざわざなぜ海外か？」という声も多くあった。

1997年に全国の海外に挑戦する蔵元が集まり、日本酒輸出協会を設立し、海外に日本酒を売り込むのではなく、伝える活動を行っている。海外の公的施設や和食レストラン、国連ビル、大英博物館などでも日本酒セミナーを行い、試飲してもらっている。20年掛けて、現在28カ国に輸出している。

挫折や苦労は何回もあった。親の反対、国税庁の反対（現在は国の政策として協力的）、店での門前払い。でも諦めなかった。世界は会社規模の大小ではなく、価値の大小を見ている。

・東日本大震災を受けて

友人の父親が家族全員を津波で亡くし、唯一、友人である息子の遺体が発見され、火葬の場に駆け付けた時「息子は死んだけれど、君達はまだ若い。岩手の未来を救うのは君達の仕事だ。私は家族を探すことに一生費やす。君達はこんな所で何をやっているんだ。」と諭された。

当時、日本中は自粛ムードに包まれていた。反発を覚悟し、全国に「どうか東北の食材を食べたり飲んだりして下さい。それが東北の復興に繋がります。」とツイッター、ユーチューブで発信した。大反響があり、東北支援の和が広がった。

自分の会社が倒産しても、どうせ死ぬなら、前のめりで死にたい。だから怖いものなど何もない。やれることは全てやる。そういう心境だった。

・最後に

東北の復興こそが、日本の復興に繋がると心から信じている。自分の子供たちの未来にとって、今まで以上の東北になることこそが、真の復興だと思っている。諦めてはいけない。東北から日本に元気を醸し出そう。伝統産業の我々が頑張ることが、地域の元気に繋がると信じている。

私の好きな言葉『不可能の反対語は挑戦である ジャッキー・ロビンソン（黒人初のメジャーリーガー）』

以上、熱く語るお話から元気と勇気をいただいた講演となりました。ご参加いただきました皆様を含め、会員各位のご協力に感謝申し上げます。

今後の労使定例政策研究会のご案内

多数ご参加くださるようご案内いたします。

例会	日時	演題・講師
第3回	平成28年11月29日(火) 14:30~16:30 東北電労会館	『人間は誤りながら生きている！ 心理学で防ぐヒューマンエラー』 宮城学院女子大学 学芸学部 心理行動科学科 教授 大橋 智樹 氏
第4回	平成29年2月2日(木) 14:30~16:30 東北電労会館	『コミュニケーション充実と 風通しの良い職場醸成に向けて、アサーティブを学ぶ！』 特定非営利活動法人 アサーティブ ジャパン 専属講師 竹崎 かずみ 氏

*今後の各例会に参加ご希望の方は、東北生産性本部（TEL 022-261-0411）までご連絡ください。